

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和4年4月

事業所名:障害者通所支援事業所ちゅらハウス1号館

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	2		様々な活動のベースに合わせてる。	建物全体を有効活用。個別指導できる部屋がもう少しあれば良い
	2	職員の配置数は適切である	8	2		個別に対応し配置している。	対応に必要な場合にも人員が足りるように募集を配置できるように進めていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		1	9	必要な部分などを設置している	玄関等など改善策はあるが利用児に合わせて改善している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1		会議などを行い全スタッフに行く届くようにする	目標を共通理解し、問題点がある場合は、話し合いを設ける
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	6		評価表の課題をスタッフで話し合い共通理解し改善につなげる。	保護者の意向を聞き改善に繋げる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	2		ホームページで開示	事業所の活動などホームページに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	9		スタッフ間で共有する	第三者までには至る事例がない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10			施設内研修やオンラインでの外部研修等後スタッフ間で報告会を行う	施設内研修を年数回行っている。また、コロナウィルス為オンラインでの外部研修などをしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	1		保護者よりアセスメントやスタッフと様子や状況の確認をしている。	新規は申し込み時、継続児は面談をし保護者ニーズに基づいた計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1		事業所内使用のアセスメントを様式を使用している。	事業所内でアセスメントに使用し行動や状況把握を記入している
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	2		担当を中心にスタッフ間で共有する。	行事やプログラム、各担当を決めて進めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	2		担当スタッフが児童が楽しめるように工夫している	曜日で固定化されているが子供の状況により変更などがあるが柔軟に対応している
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1		休日、長期休暇は楽しめることを設定している	休日は、対象児のみ利用などで個々合せた課題の設定をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	10			個々に合わせた個別学習をスタッフ間で話し合い共有している。	個々に合わせた個別学習や集団活動の支援児に合わせた支援方法の取り組みをしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2		毎日、開始前にミーティングをし全スタッフ伝え	開始前にミーティングや日誌で振り返りをし共通理解を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1		必要に応じ時間を設け全スタッフで話し合いを共有する	帰りの就業時間がバラバラなので翌日などミーティングで振り返りを行い共有確認している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			日誌と個別記録をとっている	振り返りやミーティングで話し合いの結果を記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	1		定期的にモニタリングに参加し計画の見直しをしている。	モニタリングに参加し計画に関する話を聞き見直しを作成している
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6	4		ガイドラインを確認している。	事業所内にしたがって複数組み合わた支援を行っている。

	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10			担当者会議で話し合った情報を全スタッフと共有する	サビ管などが支援会議等に参加。
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	1		日々学校との連携をとれうように学校送迎時に情報共有している。	送迎時など学校側と日々連絡を取り合える体制をしている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					医療的ケア児が現在いない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	2		関係機関との情報共有や支援内容を共有している。	各館の引継ぎの際情報共有している。関係機関との情報共有後は、スタッフミーティングで情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	2			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	3		研修後にスタッフで報告会を設けている。	コロナ禍の為オンラインでの研修参加
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10			学童クラブも利用している。	当事業所は学童クラブも同時に事業している。 コロナ禍で中止した
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9	1		協議会で話し合った内容を全スタッフと共有する	放課後等連絡協議会などにサビ管などが参加する。 オンラインでの参加
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	1		連絡帳や電話やLINEにて保護者に伝える	連絡帳など伝えたりLINEなどで伝える。また、お迎え時にも伝える。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	4	2	次年度は、保護者も参加できる内容で計画する	次年度に向けて検討中。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1		新規など変更の際は書面にて保護者に説明をする。	面談の際に保護者にわかりやすく丁寧に説明を行って
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	2		相談内容を全スタッフで話し合う保護者との面談し内容を全スタッフで共有する。	保護者からの悩みなどの相談がある時にはその都度話し合いの場を設けている。また、必要に応じて別日に相談している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	6	2	保護者会や含め保護者参加イベントを開催する	年1回の保護者総会や行事などで保護者同士の関わりがあるがコロナ禍の為中止した。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	1		保護者の要望や相談できるように苦情ボックスを設置している。	苦情・相談があれば管理者や施設長が対応しスタッフ間で話し合い迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10			毎月の便りの配布と急ぎの連絡等は電話やLINEにて対応	毎月のお便りと毎日のブログにて子供達の様子を発信している。
	35	個人情報に十分注意している	9	1		施設内の情報は外部に漏れないように職員間でも徹底している。	個人情報が漏れないように職員で徹底する 年度初めに個人情報の同意書ももらっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	1		電話やLINEと連絡帳にて保護者と情報共有している。	保護者にわかりやすく工夫してつたえている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	7	2	より多く地域へ参加・招くなどの計画を立てていく	ハロウィーンや訪問など毎年していたがコロナ禍の為、イベントが中止になり予定変更になる。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	1	しおりなどで説明を行う	毎年、オリエテーション・保護者会にてお知らせしているがコロナウィルス感染拡大の為保護者会出来ずマニュアル等の情報が周知を図るようにする。職員間でも共有している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		毎月、地震、火災、不審者の訓練を実施している。	日頃から想定をおこない訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		職場内研修で虐待研修を行い対応している。	施設内研修やオンライン研修に参加している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	1	保護者に身体拘束の対応方法を説明し了解得て計画書に記載している。	日頃から身体拘束に関して職員間で共通理解認識し取り組んでいる
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		面談にてアレルギーがあるかを確認し対応	食事やおやつなどに対応をしている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	ヒヤリハットがある場合は報告書に記載している	ヒヤリハットが起こった際は、スタッフ間でミーティングをし再発防止の確認をしている。